

プロジェクトマネジメント学科

■選考方法

書類審査、課題演習及び面接により、多面的かつ総合的に評価します。

学力試験は課しません。

(1)書類審査: 提出された出願書類について審査を行います。

(2)課題演習: プロジェクトマネジメントに関する演習(60分程度)

演習内容

①まずプロジェクトマネジメントに関する基本的な知識について説明します。

これは大学に入ってから講義を正しく理解することができるかどうかを判断するものです。基本的な内容から説明しますので、特に予備知識が必要ということはありません。説明の間は、メモをとることができます。

②計画立案に関する演習

受験生に身近なテーマについて、計画を立ててもらいます。ここでは、プロジェクトマネジメントに関する基礎的な手法を紹介し、それに基づいて作業してもらいます。作業の方法については、①で説明しますので、手法に関する事前の知識は前提としていません。必要な文具等は全て会場に用意してあります。

(3)面接: グループ面接(30分程度)

面接内容 ①自己評価理由について

②プロジェクトマネジメント学科の志望理由

③大学入学前の勉学、活動について

④大学入学後に取り組みたいこと、その取り組みを踏まえた自分の将来像

⑤プロジェクトマネジメント学科の学生としての適性

⑥課題演習に関する感想と評価

1日目: プロジェクトマネジメントに関する演習(60分程度)

2日目: グループ面接(30分程度)

演習課題

指定された事例をプロジェクトと見立て、

- (1) ワークパッケージをできるだけ多くバランス良く作成し、
- (2) ワークパッケージの中で、最も優先するものに○、最も後回しにするものに×の印をつけなさい。

※「ワークパッケージ」については当日の演習のなかで説明があります。特に予備知識を必要とするものではありません。下記は、資料を一部抜粋したものです。

プロジェクトを成功させるために

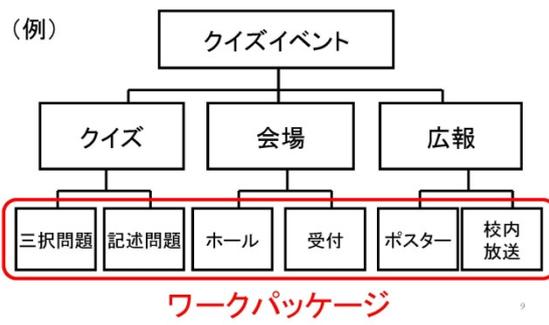
- 基本的な手法として、Work Breakdown Structure (WBS) があります。
- プロジェクトにおける全ての作業内容を洗い出す。
 - 最も上位にプロジェクトの目標が入る。
 - その下に目標達成のために必要な作業が入る。
 - 目標を作業単位が十分小さくなるまで分解する。

WBSの書き方

- 方法1(トップダウン的アプローチ)
まず目的や成果物(プロジェクトで作上げるもの)を大きなカテゴリに分け、そのカテゴリから、さらに細かく作業を分解しツリー型(階層的)に表現する。
- 方法2(ボトムアップ的アプローチ)
考えられる作業や成果物を洗い出し、まとまりをつけていく。

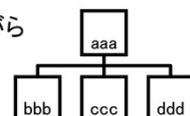
Work Breakdown Structure (WBS)

(例)

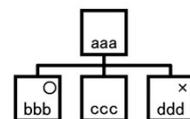


演習の進め方

- (1) WBSのバランスを意識しながらワークパッケージを作る。



- (2) 優先度について考察し、優先するふせん紙の隅に○を、後回しにするふせん紙の隅に×を記入する。



※ふせん紙が重ならないよう注意すること